

平成18年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議  
有明海・八代海特別検討会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1 開催日時及び場所 日時 平成18年12月12日(火) 10:00～12:00  
場所 西海区水産研究所大会議室

2 出席者所属機関及び人数 7機関26名

3 結果の概要

議 題	結 果 の 概 要
開会	海区水産部部長の開会宣言で本会議を開会した。
挨拶	西海区水産研究所長から、有明海・八代海の再生を目指した今後の取り組みにおける連携・協力の強化等についての説明を含めた挨拶があった。
座長選出	西海区水産研究所業務推進部長を座長に選出した。
協議事項	
1) 有明海・八代海を巡る最近の情勢	各県から、ノリ生産ならびにアサリやタイラギ等の貝類生産の推移と現況、トピックス的な研究成果、赤潮、豪雨や台風の影響等について報告があった。当所から、有明海・八代海総合調査評価委員会における検討作業の経過及び同委員会報告書(案)の概要を説明するとともに、水産総合研究センターにおける取り組み等について報告した。
2) 有明海・八代海特別研究部会の報告	同部会報告書にもとづき、①粘質状浮遊物の調査結果の概要、②干潟の浄化機能や二枚貝の資源回復に関する課題の具体化の進捗状況、③赤潮予察高度化学習会の開催状況、④成果の公表及びその利活用に関する本年度実績及び予定についての検討結果、⑤今後の共同調査研究の提案に対する対応方針及び検討結果、⑥漁場環境研究会の設置に関する提案と検討結果について報告した。
3) 次年度に向けた特別事項(部会への付託)	はじめに、有明海・八代海特別研究部会において、今後の共同調査研究に係る各機関からの提案課題を「①海洋環境モ

<p>事項) の検討</p>	<p>ニタリング、②粘質状浮遊物、③貧酸素水塊、④赤潮発生機構、予察等、⑤底質環境改善、⑥漁場環境の変化が水産資源へ及ぼす影響」の6項目に整理し、対応方針案を提示して検討した旨を説明した。また、この検討結果を踏まえて修正を加えた「今後の共同調査研究への対応方針」を提案した。貧酸素水塊調査に係る予算の仕分けについての質疑があったのみで、提案した対応方針が承認された。</p> <p>さらに、この6項目の課題とその対応方針にもとづき、平成19年度有明海・八代海特別研究部会への付託事項として、『貧酸素水塊や粘質状浮遊物などの漁場環境について、より効率的なモニタリング調査のあり方、実施体制を検討し、これらの発生予察のための調査研究に取り組むこと』及び『底質などの漁場環境と生物生産との関係や底質改善技術に関する調査研究への連携を強化すること』を提案し、協議した。その結果、研究会活動の中で具体化することで、これらの付託事項が承認された。</p>
<p>4) その他 ①推進会議部会再編案の説明</p>	<p>研究部会及び研究会の活動をより活性化すること等を目的とする「西海ブロック推進会議の部会再編について」及び「西海ブロック推進会議の部会の再編 - 今後の方向について」の提案内容を説明し、意見等を聴取した。「有明海・八代海の再生に向けた課題の洗い出しを行い、新たな取り組みについて検討する必要がある」、「他の会議や枠組みとの関係を整理し、研究会等のより効率的な運営を図る必要がある」、「短期的な課題と中長期的・総合的な課題に分け、予算の確保を含めて、連携・協力のあり方や推進体制等について協議する必要がある」、「総合調査評価委員会の報告を受けて、関係機関が連携・協力し、予算や競争的資金等の獲得のために課題化を図ることが重要である」等の意見や指摘を受け、「研究会については、県等が主催する分科会との共同開催等により、効率的な運営を図る」、「推進会議、研究部会、研究会の役割を明確にし、それぞれの役割を發揮できるよう運営に努める」、「有明海・八代海の再生に向けた課題の洗い出し、新たな取り組みや課題化については、研究会等を利用して具体化を進める」等の対応方針を示した。また、これらの意見等を西海ブロック推進会議に報告することとした。</p>
<p>開会</p>	<p>海区水産部長の閉会宣言で本会議を閉会した。</p>